

報 道 資 料

発表日：平成29年8月25日
 健康福祉部長寿社会課 総務・生きがづくり推進係
 担当者：俵元、小嶋
 電話番号：0742-22-1101(内線2855・2857)
 0742-27-8524(ダイヤルイン)
 (福) 奈良県社会福祉協議会すこやか長寿センター
 担当者：森、寺地 電話番号：0744-29-0120

第46回 奈良県高齢者美術展入賞作品の決定について

1 趣 旨

この美術展は高齢者が作品創作を通じ、仲間づくり・生きがづくり及び積極的な社会参加を目的とし、県の高齢者保健福祉月間に併せて開催しており、今年度の受賞者が決定いたしました。

2 出品点数及び入賞点数

種 目	出 品 点 数	入 賞 点 数					
		最優秀賞	金 賞	銀 賞	銅 賞	佳 作	計
日 本 画	31	1	1	1	1	3	7
洋 画	92	1	1	1	2	5	10
書	39	1	1	1	1	3	7
工 芸	34	1	1	1	1	3	7
手 芸	21	1	1	1	1	2	6
写 真	60	1	1	1	2	4	9
計	277	6	6	6	8	20	46
最高齢者賞	(男女各1名)						2
奈良県社会福祉協議会特別賞							5
総 計							53

2 最優秀賞作品 (敬称略)

日本画：井上 純子 「夏の記憶」
 洋画：藤田 尊志 「試作のための設計」
 書：長谷川 靖子 「李白詩」
 工芸：村谷 利明 「進化創造」
 手芸：東谷 和江 「天まであがれ」
 写真：貝本 泰男 「瑠璃色の輝き」

3 最高齢者賞

男性：書 米田 秀俊 93歳
 女性：手芸 坂本 キイ子 93歳
 ※過去に最高齢者賞を受賞したものを除く
 ※90歳以上の出品は10点

4 表彰式

日 時 平成29年8月29日(火) 9:30～10:30
 会 場 奈良県文化会館 集会室A・B

5 展 示 期 間

会 場 平成29年8月25日(金)～8月30日(水) 9:00～17:00
 (8月28日(月)は休館日)
 奈良県文化会館 展示室

6 作品講評会

日 時 平成29年8月27日(日)
 午前10時～ 書・手芸・写真(3部門)
 午後1時30分～日本画・洋画・工芸(3部門)
 会 場 奈良県文化会館 展示室

第46回奈良県高齢者美術展 審査員による講評

<日本画>

<全体>

出品作品が昨年より増え、50号の大作や新しい試みをされた作品も多く、又水墨画にも感性豊かな作品が見られ、充実した展示になっています。

<最優秀賞>

向日葵の生命感が良く表現された秀作だと思います。枯れた花、茎、葉の構成が巧みで茶系とグレーの色合いが落ち着いた画面になり、季節感が出ています。空間の処理も、白と黄土の色面が向日葵の形を効果的にまとめています。

<洋画>

<全体>

5, 6年前にくらべますと20~30点の出品増。

会場は抽象と具象のシニア層の作品があふれました。

やはり、賞選考になりますと独創的な作品にしばられてきます。いい意味で抽象、具象がバランスよく選ばれました。

日野原先生曰く「年をとること自体、未知の世界に一歩ずつ足を踏み入れていくこと、こんな楽しい冒険はない。」同感で絵は作品ごと冒険のはじまりです。

<最優秀賞>

試作のための設計 藤田尊志

小品ですが、すんなりトップ賞に選ばれました。

観ていてもホットするようで、懐かしさの中に新らしさが感ぜられ画面の奥行もあり色彩と形のバランスが抜群です。

<書>

<全体>

高齢者のお一人お一人の活力が作品からあふれているように思いました。

例年、かな作品がもっと多かったように思います。

次年に期待します。

<最優秀賞>

広い紙面に李白詩二首を書いて、大小の文字の配置も見事にきまっている。意欲に満ち、若々しさに溢れた作だから、更に高いところを求めてほしい。

印の位置を考慮して落款を書こう。

<工芸>

<全体>

今年も出品点数が多く中でも陶芸に点数も多いだけでなく、優秀な作品が多かったが他にも木工、織物、乾漆、切り絵、彫刻などがあるが中には努力作であるものの工芸として創作性に欠けている作品もある。内容によっては技術を駆使する事が必要と思われる。

<最優秀賞作品>

題名「進化創造」は丸味形体に進化文様を白化粧にて刻画しコバルト青結晶釉で焼成した秀作である。

<手芸>

<全体>

今回は立体作品が少なく壁面平面作品が多かった。
既存の布に手を加えて出品しているのが気になった。
創意工夫があり、創作意図が伝わる作品を目指してもらいたい。

<最優秀賞>

「天まであがれ」（東谷和江66才）の作品
ヒマワリの花をモチーフにデザイン化したパッチワークのタペストリーが最優秀賞に決まった。
構図や色合いに工夫が見られ、綺麗な仕事ぶりで完成度の高い作品である。

<写真>

<全体>

本年度の応募作品は、若干昨年より少なめで、全体として、それぞれの個性を表現した作品でした。
写真という映像を通して、物の見方、感じ方に、気がついたり、また刺激を受けたりすると、物事の本質を再発見することがあります。
一枚の作品を撮るのに、まずどのように表現するかという表現技術とフレーミングが必要となる。
表現方法を変えることで新鮮な印象で伝わってきます。
明年に向かって、フレーミング、ピント、画題に注意し、感性を磨き、挑戦していただきたい。

<最優秀賞>

瑠璃色の輝き 作者 貝本泰男
自然の中に形成された野鳥の生きる為の知恵と生命力！翡翠が餌を捕獲する一瞬のステージ！動作も勇ましく、姿も優美で誰もが追跡したくなる。お見事に撮られた力作である。